

5 支部事業報告

〈東部支部〉

東部支部全体の事業は、順調に推移してきたものの終盤に入り、新型コロナウイルス対策のイベント自粛により、予定されていた会議や種別の試合等中止が余儀なくされた。特に、JFA 第 31 回全日本 O-30 女子サッカー大会の中止は、運営準備やスタッフの確保等も進んでいただけに残念な結果となり落胆を深めた。準備にご協力いただいた役員の皆様に深く感謝いたします。

さて、東部支部の年度トピックスとしては、全国高校サッカー県大会における富士市立高等学校の快進撃だった。決勝戦で惜しくも静岡学園に敗れはしたが、そのイレブンの雄姿に東部地域のサッカーファミリーや市民の盛り上がりは最高潮に達する勢いであった。さらに、快進撃の背景として、小・中学校からの一貫した指導方針で練習できる環境づくりがされ、地元の高校で活躍できる選手が育っていることが注目されるなど、地域と一体となった長年の取り組みとその成果が現れたことについても誇らしげに感じた。

次に、今年度も選手登録の減少が目立ち、小・中学校では合同チームが増加している中で、4 種の東部少年サッカー選手権大会は、東部地域の 88 チームが参加し、普段は対戦することがないチームと試合を行うことで、チーム力・技術力を体感し総合的なレベルアップが図られた。今後も育成方針を左右する東部全体のバロメーター的の大会として、選手、監督・コーチが一丸となり取り組んでいく。

中学においては、土日のどちらかを休みにすることになり、まともな練習が困難なことやリーグ戦を設けることが難しく、試合経験を積むことも減少しつつある。また、高校においては、リーグ戦で強化を図り、それをカップ戦（総体や新人戦）に繋げることはある程度できているが、県大会の戦績では、良い結果を残すことができなかった。課題として、リーグ戦以外での強化も必要なので、各指導者のマネージメント力を補強し、ネットワークの構築等により練習試合の増加など工夫していくことが必要と考えている。

東部フットサルにおいては、1 種の 2019 年度全日本フットサル選手権において初の高校サッカー部が参加し、チーム数も前年度より 4 チーム増加した。しかし、2 年連続東部から参加した 4 チームは 1 回戦敗退となるなど各チームのレベルアップが急務である。2 種から 4 種に関しては、参加チーム増加を目標に各種別委員長と連携し、底辺のレベルアップを図るため協力していく。

女子の育成は東部トレセンを中心に行っているが、本年度は子供たちに普及し参加人数が 100 名近くあった。また、年 3 回の大会への参加を通して子供たちが大舞台で諦めないことや、自ら考え行動するなど成長する姿も見られた。今後も東部トレセンと東部女子リーグとの交流も行い、地域チームへの参加を促す中で、継続してサッカーを続けられる環境を整え、東部女子サッカーの振興を図っていきたい。

シニア委員会の活動は、年間を通して、怪我をせず楽しくサッカーを行い、県内外のチームとの親睦を深めることも醍醐味である。東部は、40 歳から 60 歳までの下位チームが多く、中位か

ら上位になれるよう努力していきたい。

最後に、東部支部が受け持つ全国大会開催の運営に際し、シニアの皆さんのたゆまぬ情熱と行動力は今後も必要不可欠であり、健康第一にそのパフォーマンスを維持していただき、ご協力を願うものである。

＜中東部支部＞

令和元年度の中東部支部事業は概ね良好に実施することができ、ご協力いただきました多くの皆様に感謝申し上げます。

以下、重点施策を中心に報告します。

1. 県協会支部としての積極的活動

今年度は「静岡サッカーの歩み百年祭」が通年で実施され、静岡サッカーの日リスペクト推進活動研修会・ウルトラサッカーフェスティバル・感謝の集い・レジェンドマッチなど、様々な事業に積極的に取り組みました。

2. 支部の在り方について

各種別の状況が異なるなか、中部支部とともに「静岡市サッカー協会」として、「サッカー祭り」や「静岡カップ」などを協同して実施し、互いの協力関係の維持・強化を図りました。

3. 競技力・技術力向上・リスペクトの推進

①競技人口の増加策として、昨年に引き続き中東部支部内の4種チームを紹介する「4種マップ」を作成し、清水区内の小学1年生及びこども園・幼稚園等の年長児童の全員並びにガールズサッカーパーティー参加者等に配布しました。今後ともこのような取り組みを継続し、未就学児童のキッズ活動の充実と少年チームへの加入促進を図ってまいります。

②各種大会での成績については、

清水桜が丘高校、東海大学静岡翔洋中学校、清水エスパルスジュニアユース、清水エスパルスU-12清水が県を制し高校総体等の全国大会に進出するなど、各カテゴリーで活躍しました。

4. 清水エスパルスなどとのホームタウン推進

我々のトップチームとしてJリーグ等での応援と、支部内の大会へのエスパルスの協賛・協力等を通じ、引き続き良好な連携が図れました。今後とも良好な相互協力関係を構築していきたいと思えます。

5. 競技会運営等

各種別・委員会の皆様の協力をいただき、天皇杯全日本サッカー選手権大会2回戦に加え、10年ぶりに国際親善試合「なでしこJAPAN対カナダ女子代表」の運営を担当しました。

今年度は、年明けからの新型コロナウイルス感染拡大により日常の活動が制限され、残念ながら家康公杯清水スーパーシニアサッカー大会をはじめ多くの大会・遠征等が中止を余儀なくされました。

現在、先を見通すことは難しい状況ですが、一日も早く感染が収束し、安心してサッカーができる日々が戻ることを願い、事業報告とします。

<中部支部>

【第一種社会人委員会】

<成果>

- 1.第一種委員会（社会人部）登録チーム 78 チーム
- 1.静岡県協会県リーグ参加チーム 9 チーム
- 2.静岡市静岡社会人リーグ参加チーム 69 チーム

2.2019年度第53回静岡社会人サッカーリーグの開催

- 1) 実施期間 2019年 4月 7日～2019年 9月22日
- 2) 参加チーム数 69 チーム
- 1 部 14 チーム
- 2部A 14 チーム 3部A 14 チーム
- 2部B 14 チーム 3部B 13 チーム
- 3) 試合結果

リーグ	優勝	準優勝	3位	備考
1部	S. J. FANANN	長田 FC	SC クラブ	※1位は5支部リーグへ
2部A	FC ボンベール	静岡 クラブ	Regard	
2部B	ESPERANCA	INFINITTE	ポーラ弥生クラブ	
3部A	高松 TFC	PISTOLS SIZUOKA FC	S i C	
3部B	Deportista ferize	服織 FC	オーバーラップ	

※S. J. FANANNは県リーグ昇格決定戦(5支部リーグ)に参戦し、昇格決定

3. 2019年度第17回 静岡市静岡（葵区・駿河区）市民大会

4. 2019年度第50回 静岡サッカー協会会長杯サッカー大会

2大会は台風による冠水被害によるグラウンドの使用不可により大会中止

<課題>

2019年度の最大主要行事のリーグは参加各チームの協力と、実行委員をはじめとした全役員の努力と総意工夫により大きな事故・トラブルも無く計画通り実施することが出来ました。

大会の運営については、参加チーム数の減少により、ゆとりのある試合消化ができるようになりましたが、運営経費的には非常に厳しい状況となっております。様々な経費の節減に努め、各チームには出来るだけ負担の増すことの無い様工夫を重ねて参りますが、これ以上のチーム数減少には歯止めを掛けなければなりません。各チーム、参加各人の協力を強く求めます。

令和のスタートである今年度は、S.J.FANANNの県リーグ昇格もあり、O-35県大会においては見事三連覇を果たし、実りある年でありました。この流れを次年度に繋げてゆきたいと考えます。

【第二種高校委員会】

<成果>

年3回のフェスティバルについて、春はコロナ対応のため中止となったが、夏、冬は、無事運営することができ、各高校とも公式戦に向けてのレベルアップができ、各チームが実力を発揮し

た。特に、静岡学園が、全国高校選手権に優勝したことで、地区全体が活性化したと感じる。

<課題>

協会主催のリーグ戦、各フェスティバルについて、試合数が多いため、会場確保の問題がある。質の高い大会にするためにも、芝でのゲームが増えればと感じる。地区のレベルをさらに上げるため、各チームが切磋琢磨できる環境整備を進めていきたい。

【第三種中学・クラブ委員会】

<成果>

それぞれのレベルにあった強化が行われている。大会を行うごとに競技力が向上している。地域におけるチームへのサポートが向上している。

<課題>

夏場の熱中症対策における大会日数の増大、インフルエンザなどによる大会運営継続判断登録選手の減少、2学年で1チームできないチームの増加、登録チームの減少日程の過密(県リーグ)、ゴールや用具などの固定安全対策

【第四種少年委員会】

<成果>

他支部に先駆けて行っているディヴィジョン制のリーグ戦がしっかりと定着し、充実した試合が増えています。また、審判へのクレームやラフプレーもほとんど見られなくなりました。成績という点では、県大会優勝チームが2年連続で出るなど、フットサルも含めて結果が続けて出ています。

<課題>県大会が減らないことによる日程面の課題は残ったままです。また、今年度も登録人数の減少に歯止めがかからない状況が続いています。サッカーファミリー拡大の点では、普及的な事業に取り組んでいきたいと思えます。

【キッズ委員会】

<成果>

巡回指導、フェスティバル、キッズ指導者講習会の3事業を主に活動してきました。指導者講習会ではキッズサッカー教室に参加している保護者を対象に講義を実施。サッカーと子どもの関わり方など実例をあげて学習。大変好評であった。

<課題>

スタッフの確保。4種の登録人数を踏まえ少子化によるサッカー人口増加を考えた活動をしていく。キッズの事業の内容を再度検討して行く。

【シニア委員会】

<成果>

静岡県シニアサッカー50リーグ1部5年連続優勝しました。駿府フットボールクラブが全国シニア大会東海予選に出場しましたが、代表決定戦に敗れ出場を逃しました。令和元年度も駿府FC50が静岡県シニアサッカーリーグを無敗で優勝しましたので今年度こそは全国大会出場目指します。

<課題>

シニアリーグは高齢者の試合の為、車での東西移動は大変です。中部支部管轄で多くのグラウンド

が確保出来れば西部と東部チームの試合を静岡でできます。

【フットサル委員会】

<成果>

今季の中部地域リーグは2部制で行ったが、各チーム・選手共に運営面でも協力してくれ、スムーズにリーグ運営ができた。公式戦としての各チームの意識も高く年々レベルも上がっている。

<課題> 使用体育館の確保状況により、会場が少し偏ってしまった。

【女子委員会】

<成果>

なでしこキッズサッカー教室を月1回開催し、園児29名、小学年生9名が参加した。常葉大学附属橋中学、常葉大学附属高校は東海リーグ、静岡大成高校、富士見FCガイア、静岡エルFCは県リーグに参加した。また、常葉大学附属橋高校が第28回全日本高等学校女子サッカー選手権大会の全国大会に、常葉大学附属橋中学が第24回全日本U-15女子サッカー選手権大会の全国大会に出場した。

<課題>

支部内の各チームがそれぞれ東海リーグ1部・2部、県リーグ1部・2部に所属しているため、支部リーグがない。また、それぞれのチームがさまざまなカテゴリーの各種大会に参加し、試合日程が過密なため、支部内のチーム間で交流を図ることが難しい。

グラウンドを保有しているチームが常葉大附属橋中学・高校だけなので、女子委員会が管理するグラウンドの確保が依然として課題である。なでしこキッズサッカー教室を通じてサッカーに親しんでもらった女子園児を小学生チームへの参加につなげられるよう、小学生になってからもサッカーを続けられる場を提供したい。

【審判委員会】

<成果>

プラクティカルトレーニングや競技規則勉強会を定期的で開催。WEB競技規則テストも配信し競技規則への理解を深めることができた。ユース審判員が全日少全国大会にて準決勝を担当でき、高いレベルのユース育成ができた。3種保護者へのアプローチにより、新規審判資格取得ができた。

<課題>

継続して高校生審判員の育成とレベルアップを進め、ユースリーグを高校生が担当できるように指導したい。フットサル指導への着手と審判指導を行いたい。女子審判員の発掘。

【規律委員会】

①第1回静岡県規律委員会 日時：7月19日（金） 会場：県協会会議室

内容：東部地区四種委員会役員の運営費不適切支出問題についての協議と処分決定

②第1回静岡県規律委員会

3月12日開催予定なるも、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止。変わって書面採決内容：西部地区四種指導者の懲罰にかかわる事案の協議と処分決定

＜中西部支部＞

2019年度 中西部支部は、「全国大会の開催・運営」・「普及・強化」・「指導者のレベル向上」・「審判員の養成と技術の向上」・「ウェルフェアオフィサーの推進」の5つを重点目標に掲げて取り組んだ。

「全国大会の開催・運営」では、第41回〈皇后杯〉全日本女子サッカー選手権大会を無事運営する事が出来た。

「普及と強化」では、普及面で登録チーム数が172チームと前年比2チーム減、人数は6,404名と前年比180名減少した。1種・3種・女子の減少に対策が必要である。強化面では、藤枝市役所が全国自治体職員サッカー選手権大会6年連続優勝、藤枝順心高校が全国日本高等学校女子サッカー選手権大会2大会ぶり4度目の優勝と全国大会での活躍が見られた。藤枝東高校が県大会高校新人大会優勝、藤枝明誠SCが日本クラブユース選手権静岡県予選優勝、ラガッツァ焼津がフジパンCUPユースU-12静岡県大会優勝。フットサルでは藤枝順心SCJYがJFA全日本U-15女子フットサル選手権東海地域大会優勝、藤枝順心SCJrが静岡県レディースフットサル優勝と各種別が各種大会で優秀な成績を収め活躍が目立った。各種別の活躍に感謝し、今後の更なる活躍を期待したい。

「指導者のレベルアップ」では、技術委員会を中心に様々な講習会や研修会が実施された。

「審判員の養成と技術の向上」は、審判委員会の更なる養成と技術の向上に向け取り組みの継続を期待する。

「ウェルフェアオフィサーの推進」は、金銭の不明瞭や暴力・暴言・差別の無い正常なチーム運営を推進してきた。

＜西部支部＞

最初に2019年という1年間は、静岡のサッカーにとって大きな節目となる1年でありました。1919年、静岡師範学校に蹴球部が創設され、静岡のサッカーがスタートして2019年で100年を迎えることが出来ました。そして、節目となる年に国体少年が8年ぶりの優勝し、JFLでは、HondaFCが優勝、しかも4連覇という偉大な記録を作りました。高校選手権女子では、藤枝順心高校が優勝し、高校選手権男子では、静岡学園高校が優勝となり、サッカー王国復活の1歩になったと思います。

次に西部支部の報告をさせていただきます。

最初に2019年度におきましても西部支部各事業に際し、ご理解ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

例年開催しております西部支部総会、懇親会ですが今年度もたくさんの方に参加していただき、盛大な会になることができましたことをこの場をお借りして、感謝申し上げます。

続きまして各種別の報告をさせていただきます。Jリーグでは、ジュビロ磐田がJ1上位に向けて、スタートダッシュしてくれると県内のサポーターは、思っていましたが、結果的には、監督が4人に渡り交代となり、大変残念であります。J2降格となってしまいました。2020年は、

J2で優勝して1年でJ1復帰できるようにチーム一丸となり、頑張っていたきたいです。また、サポーターの方々、引続き熱い応援をお願いいたします。

JFLでは、HondaFCが昨年度に続き年間王者に輝きました。今年度は、完全優勝こそ逃しましたが、この4連覇という偉大な記録を今後、他のチームが抜くことは、難しいでしょう。天皇杯でもベスト8に進出して、西部地区サッカーを大いに盛り上げ、明るい話題を振りまいてくれました。

全国大会運営において、天皇杯運営（2回戦、3回戦、4回戦）を行いました。ヤマハスタジアムで運営し、2回戦は、組合せがジュビロ磐田 vs ホンダロックとなり、5-2で勝利し、3回戦では、ヴァンラーレ八戸に6-0で勝利しJ1の力を見せてくれました。4回戦では、J1清水エスパルスとの静岡ダービーでありましたが、残念ながらPK戦で敗れてしまいました。近年の天皇杯は、平日のナイター開催が多いため、観客動員数に響いていると思います。天皇杯における収益が支部運営資金に繋がるとあって、より一層緻密な計画の元収益が上がるような運営をと考えております。

各種別の活躍では、1種（社会人部）で浜松市役所サッカー部が全国大会出場。大学では、静岡産業大学、常葉大学浜松キャンパス、3種では開誠館中、女子では静岡産業大学磐田ボニータが全国大会出場となりました。しかしながら、上位進出とはならず、残念でありました。しかし、各チームの目標となる活躍をしてくれたことは、大いに喜ばしいことでした。

全国大会に出場して上位を目指すには、選手のレベルアップだけでなく、指導者のレベルアップも必要であります。支部として指導者海外研修（H27）、伝達講習会（H28）を行い、今年度も技術委員会が中心となり吉田氏を招いて指導者研修を行いました。トレーニングとして大切なこと、指導者としての指導方法等多くの事を学べる機会であったと思います。

リスクマネジメントにおいては、チームと選手、保護者とのトラブルがあり、県協会事務所、西部支部事務所に問い合わせや意見が来ております。支部といたしても、適切な対応を行うため県協会と連携を図り、該当する関係者に聴取や指導を進めております。総会でも指導者の方々をお願いさせていただきましたが「選手がサッカーを楽しむ」そのためにも「プレーヤーズファースト」「チャレンジ」「フェア」「リスペクト」これらを指導者、選手、保護者が意識することが必要になります。ご理解、ご協力の程、よろしく申し上げます。

西部支部の重点施策で普及活動の一環として、芝生、人工芝の増設に努めておりますが、2019年度、浜北平口サッカー場に人工芝グラウンドが、増設されました。今後も人工芝のグラウンド増設に向けて行政に要望してまいります。

西部支部もこれからの時代を見据えて課題や問題もまだまだ山積みしております。一つ一つを役員一丸となってクリアしていく所存であります。

静岡のサッカーが、次の100年に向けてスタートしております。静岡のサッカーを盛り上げるためにも、まず西部地区のサッカーを盛り上げていきたいと思っております。2020年度も西部支部の各事業、運営に対し、ご理解ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。